



急に寒くなりました。冬ごもり前のクマが人里に出没し各地で人身被害も深刻になっています。温暖化の影響等により、クマの主食となるドングリなどの木の实が不作で食料を求めて山から下りてきているとか。私たちが作りだした環境の変化が、動物たちの生活にも影響しているのですね。童謡『森のくまさん』は誰もが知る歌ですが、この歌を聞いて自分が本当にクマと出くわすことを想像した人はいたでしょうか。もしかすると北陸にお住まいの方は身近な存在なのかもしれませんが、私たちのようにクマを動物園でしか見たことがなければ、クマと遭遇したときにどう対処するべきなのか案外知らないものです。昨年、信州へ登山に行った知人から山の中でクマに遭遇した話を聞きました。背中を見せると襲い掛かってくるので、3時間ほどにらめっこをしながら静かに後ずさりをして下山したという何とも恐ろしい話でした。近いうちに北海道に行く予定がある私は、初めてクマ対応を真剣に考えています。まずはクマのことを知ることから始めよう！

さて当園の職員会議では年に2回、自分のことを話す日があります。ひとつは年始の『新年の抱負』、もう一つは『1分間スピーチ』です。1分間スピーチとは、様々な会社などでも取り入れられているものと同様に①人前で話すことに慣れる ②話を簡潔にまとめる ③人に伝わりやすい話し方を習得する、ということを目的として始めました。もう何年目になるでしょうか。私たちは毎日子どもの前で話すのが仕事です。ですから人前で話すことには慣れていそうですが、相手が大人だと意外に緊張するものです。ところが、この効果はむしろ『聞く』ことにあったように思います。時代は変わり、昔のように職場の仲間と遊びに行くことも減りました。そのことがどうというわけではなく、プライベートなことを話す機会が減ったことで、一緒に働く仲間が何に興味がありどのような日々を過ごして

いるのかなど全く分からなくなったのです。私は世代の違う職員がそれぞれのことを話すこの『1分間スピーチ』が大好きです。共通の趣味に親近感が増したり新しい情報に感化されたりと、たった1分の話から溢れる『その人らしさ』が最大の魅力だと思います。少しだけその人のことを知れた気がします。他の人のことをすべて知る必要はないけれど、その人の考え方や大切にしていることを少し知るだけで、交わす言葉も変わってくるものです。コミュニケーションってそうやって生まれるものではないでしょうか。



ほっこりさん



運動会が終わってしばらくしたある日、年長のTちゃんと廊下ですれ違いました。運動会のリレーでの勇姿を思い出し思わず声を掛けました。『Tちゃん、走るの速かったね〜!』。Tちゃんは嬉しそうに『そうなんだ。みんなびっくりしてた。』と嬉しそうに返してきました。その後改まって『ねえ、園長先生ってさ、なんで(子どもたち)みんなの名前覚えるの?』と聞いてきました。思ってもいなかった質問に、私はすぐに言葉が出ませんでした。実は名前を覚えるのは苦手な方なのです。特にバス通園の子は顔を合わせる機会が少ないため、一生懸命エピソードと関連付けて覚えるようにしています。それでも髪型が変わったり、身長が伸びてシルエットが変わったりするとすぐに名前が出てこないこともしばしば。そんな弱点と反対のことを言われ、ちょっと不意打ちを食らった気がしたのです。

Tちゃんには『みんなのことが大好きだから、お話しするときはちゃんと名前前で呼びたいもんね。』などとその場しのぎのことを言ってしまいました。なんともつまらない答えです。うーん…何と答えるのが正解だったのか。次に聞かれた時にはもっと素敵な答えが返せるよう今から考えておこう。

園長：讚井 理香